

小学校第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

単元名：熊野筆調査隊 Part 2

指導者 熊野町立熊野第一小学校 宮脇 麻依子

- 1 日 時 平成27年11月6日（金）5校時
- 2 場 所 4年1組教室
- 3 学年・学級 第4学年1組（31名 男子17名 女子14名）

単元について

本校4年生は、毎年伝統工芸士の指導のもと、筆作りを体験している。また、運動会では、筆踊りを披露するのが伝統となっており、地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、指導していただいている。さらに、昨年度から、筆まつりの日にひかれる彼岸船を彼岸船保存会の皆さんの協力を得て、運動会の筆踊りでも引き、筆踊りを盛り上げる素材が加わった。しかし、体験活動は充実しているが、探究的な活動になっているかという課題がみられた。そこで、1学期には、熊野筆調査隊として、熊野筆と筆踊りについて、知っていることを挙げ、思考ツールを用いて比較したり、他学年へのアンケート調査を行ったりした。また、運動会の筆踊りを指導してくださるゲストティーチャーに、筆踊りの歴史や込められた願いについての話を聞かせていただき、昔から伝わる筆踊りを熊野町で育つ児童に伝え、正しく踊り継いでほしいと願っておられること、子供の頃から筆踊りに親しみ、ふるさと熊野を大切に思うきっかけにしてほしいと思っていられしやることを知ることができた。本単元では、1学期のアンケート調査の結果やゲストティーチャーから学んだことを基に、本校他学年の児童と町外の小学校の同級生に筆作りや筆踊り、彼岸船についてより知ってもらえるように検定問題を作成する。今まで児童が学んできた内容を、どの学年に、どのような問題を作成して伝えることが熊野町の伝統を広めていくのに効果的か、課題の解決に向け思考する場面を設定し、相手意識や目的意識を明確にしながら主体的・協同的に発信していけるようにする。

児童実態

本学年の児童は、3年生の時に熊野町の自慢について様々なことを学び、学んだことを熊野町のために役立つように発信していこうと、相手意識や目的意識を明確にして表現する活動を行っている。

本学級の児童に、総合的な学習の時間に関するアンケートを行った。「総合的な学習の時間は楽しいですか。」の問いに肯定的に答えた児童は84%になった。その理由として、「色々なことを体験できる。」「学んだことを色々な人に知らせたり、広めたりすることが楽しい。」「みんなで話し合ったり、相談したり、協力したりすることが楽しい。」という内容が多く見られた。反対に、あまり楽しくないと答えた児童の答えた理由には、「話し合いがうまくいかない。」「新聞などにまとめる時に、字をたくさん書かなくてはいけない。」「字をきれいに書くことが苦手である。」というように、表現の場面に関係する内容が挙げられた。また、伝える相手のことを意識して表現しているか尋ねたところ、どの項目も80%以上の児童が肯定的に答え、表現する際に伝える相手のことを考えることの重要性は多くの児童が意識できている。また、87%の児童が「自分の住む町、熊野町が好き」と答えており、「何十年か先の熊野町も筆づくりがもっと有名になってほしい。」「今よりもっと自然があふれていて欲しい。」「筆作りや筆踊りの伝統がずっと続いていて欲しい。」などの思いをもっている。

単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 既習の学習や体験から、課題を発見し、設定する。（課題設定力）
- イ 課題解決に向けて、計画を立て、解決方法を考え追究する。（思考力・課題追究力）
- ウ 調べたことや考えたことを検定問題としてまとめ、相手や目的に応じて表し、発信する。（表現力）

【自分自身に関すること】

- エ 目標を設定し、課題の解決に向けて活動する。（自己理解力）

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- オ 自分と異なる意見や他者の意見を受け入れたり、他者と協同して課題を解決したりする。（協同する力）

単元の目標と評価規準

【単元の目標】

筆作りや筆踊りの体験を通して、町の伝統を伝え・広めることができるような、目的や伝える相手に適した検定問題を考え、発信し、地域の伝統や文化を伝え・広めようとするができる。

【評価規準】

評価の観点	学習方法			自分自身	他者や社会とのかかわり
	課題設定力	思考力・課題追究力	表現力	自己理解力	協同する力
単元の評価規準	① ベン図を使って、筆作りと筆踊りを比較し、共通点から課題を設定している。(ア) ② 筆作りや筆踊りを伝え・広めていくために、自分たちができることを考え課題を設定している。(ア)	① 筆作り、筆踊りについての他学年へのアンケートを作成し、実態調査をする。(イ) ② 検定問題を作ろうとした目的や、各学年に合った問題を作成しようと思えることができる。(イ)	① 調べた事や、専門家の話、アンケートの結果などから得た情報を基に、新聞にまとめている。(ウ) ② 検定問題を効果的に発信する方法を考え、表現している。(ウ)	① 筆作り、筆踊りを通しての活動を振り返り、自分の頑張りやできたことに気付いたり、さらに広めていこうという思いをもったりしている。(エ) ② 目標に向かって、自分のすべき役割を果たそうとし、これからの生活における展望と行動について考えている。(エ)	① 自分の考えを伝えたり、他者の異なる意見を受け止めたりしている。(オ) ② 課題の解決に向けて、友だちと協同して問題作りに取り組んでいる。(オ)

単元の指導計画と評価計画

小単元名(時数)	主な学習内容	評価規準及び評価方法	
熊野筆調査隊	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊野筆や筆踊りについて知っていること・知りたいたいことを挙げ、学習テーマを決める。(2) ○ 筆作りや筆踊りについての実態調査に向け、アンケートを作成する。(6) ○ アンケート依頼の計画をたてる。(2) ○ 筆踊りについての疑問を出す。(1) ○ 筆踊りについての話を聞く。(1) ○ 筆作りに関する疑問を出す。(1) ○ 筆作り体験をする。(2) ○ アンケート結果を整理・分析する。(3) ○ 筆踊り・筆作り新聞を作成する。(6) 	[課題設定力] ① [思考力・課題追究力] ① [協同] ①	制作物による評価(学習シート) 観察による評価(行動観察)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習を振り返り、課題を見付け、運動会の原稿を作成する。(2) 	[思考力・課題追究力] ① [表現力] ①	制作物による評価(学習シート) 制作物による評価(新聞)
		[課題設定力] ②	制作物による評価(学習シート)

熊野筆調査隊 Part2	○ 彼岸船の飾り付けをする。(1) ○ 筆踊りを体験する。(5) ○ 筆まつり唄について調べる。(2) ○ ゲストティーチャーや彼岸船保存会の方にお礼状を書く。(2) ○ 筆作りや筆踊りを伝えていくために、自分たちができることを考える。(1) ○ 検定問題の作成に向けて、相手や目的を明確にする。(3) ○ 筆作りや筆踊りについての検定問題を作成する。(6) ○ 検定本を作成する。(4) ○ 検定問題を他学年・他校児童に発信する。(2)	[自己理解力] ② [思考力・課題探究力] ② [協同] ① [思考力・課題探究力] ② [協同] ② [表現力] ②	制作物による評価 (振り返り学習シート) (お礼状) 観察による評価 (行動観察) 制作物による評価 (学習シート) 観察による評価 (行動観察) 制作物による評価 (検定本)
-----------------	---	--	--

本時の学習

(1) 本時の目標

問題を解いてもらう学年(相手)や、何のために検定問題を作って伝えるのか(目的)を意識しながら、検定問題を作ることができる。

(2) 準備物

マトリックス表, ワークシート, アンケート結果の掲示物, 前時に児童が考えた問題3点, ヒントカード

(3) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ★支援を要する児童への手立て	評価規準	評価方法
1 前時までの学習を確認する。			
○ 掲示物やワークシートを基に、振り返る。 ○ 前時にみんなが考えた問題を知る。	・ 前時に考えた、みんなの問題がどのようなものか紹介する。 ・ 問題の不完全な部分に視点が向けられるようにする。 ・ 改善すべき点を出し合う。		
2 本時のめあてを確認する。			
【めあて】 相手や、目的にあった検定問題を作ることができる。			
○ 問題作りで気を付けることについて確認する。	・ 前時の課題を生かしためあてを考えられるようにする。 ・ マトリックス表を基に、どのようなことを意識して問題を作ればよいか確認する。		
3 検定問題を作る。			
○ 個人で、問題を作成する。	・ 早く問題が出来ている児童については、全学年の検定本作成に向け、できるだけ多くの問題ができていた方がよいことを伝える。 ★ 問題が作りにくそうな児童について		

	ては、前時に考えた問題の良いものを考えるヒントとして伝える。		
4 問題を交流し合う。			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに、作った問題を交流し、それぞれの問題を評価し合う。 ○ 全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作った問題ごとに、みんなで評価点を付ける。 ・ 最も評価が高かった問題について、理由も含めて全体の場で発表することを伝える。 	【思考力・課題追究力】② <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝える相手や目的を意識して検定問題を作ることができる。 	ワークシート 行動観察
5 本時の振り返りと次時の確認をする。			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返りをワークシートに書く。 ○ 次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの観点を明確にし、伝える。 <ol style="list-style-type: none"> 1 相手や目的を意識して、問題を作ることができたか。 2 自分の作った問題を伝え、友だちの考えから学ぶことができたか。 ・ みんなが考えた問題を集約して、各学年の必要問題数に近づくように問題作りを続けることを伝える。そのために、情報収集を続けて欲しいことも伝える。 		

板書計画

前時にみんなが考えた問題①

改善のポイント①

前時にみんなが考えた問題②

改善のポイント②

前時にみんなが考えた問題③

改善のポイント③

めあて

相手や目的に合った、検定問題を作ることができる。

相手	文字	内容	必要問題数	目的	アンケート結果からの課題
1年	漢字×	やさしい	10問	筆踊りについて知り、覚えておいてもらいたい。	筆踊りを知らない人が多かった。
2年	漢字△	↓	10問	熊野筆が日本で、世界に誇れることを伝えたい。	熊野町筆の生産量日本一ということを知らない人が多い。
3年	漢字△		15問	来年筆作りや筆踊りを経験し、伝える側として頑張ってもらいたい。	筆のことを知っている人と、知らない人の差が大きい。
他校4年	漢字○		20問	町外の人にも知ってもらいたい。	やっていない。低学年以上に細かいことまで問題にできる。
5年	漢字○		15問	筆まつり唄について、詳しく伝えたい。	筆まつり唄について、くわしく知らない人が多い。
6年	漢字○		15問	筆作りについて、伝えたい。中学でも伝え、広めてもらいたい。	伝統工芸士について、知らないとかうまく説明できない人が多い。